

まことはい

「霊を見分ける」

「私たちは神から出た者です。神を知る人は、私たちに耳を傾けますが、神から出ていない人は、私たちに耳を傾けません。これによって、真理の霊と惑わしの霊を見分けることができます。」

(ヨハネの手紙一 第4章6節・新約聖書433頁)

はじめに

この手紙を書いたのは福音書を書いた使徒ヨハネです。手紙の冒頭の「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て、手で触れたもの、すなわち、命の言について」は、主イエスが神であり、人であるのだとの告白ですが、十字架のそばにいたヨハネだからこその内容です。「初めからあったもの」＝神であるかた、「私たちが聞いたもの」＝預言されたかた、「目で見えたもの」＝預言を実現されたかた。そして「よく見て、手で触れたもの」は、十字架を間近で見、主イエスの流された贖いの血に触った者でしか言い得なかったと思います。

この時代、目に見えるもの、物質を悪、汚れとするグノーシス主義がもてはやされていました。そのため、人となって贖いの血を流した主イエスの救いを否定する傾向が強くなり、ヨハネはそのためにこの手紙を書くのです。

イエスを告白する

ヨハネは弟子で唯一、最後まで主の近くを離れませんでした。皆が逃げてもヨハネは十字架の下にいたのです。恐らく「大祭司の知り合い」(ヨハネ 18:15)だったこともあるかもしれませんが、一部始終を見ていたからこそ、主イエスの十字架を語ることができたのです。

私たちは主イエスがなぜ人になってこの世に來られたかを知るべきです。私たちと同じ人間になることでしかなしえなかった救いを受け入れ、「イエス・キリストが肉となってこられたことを告白する」ことで、私たちは「神のもの」

され、そして救いから遠ざけようとする惑わしの霊を見分けられるようになるのです。

反キリストの霊

この世は惑わしの霊で満ちています。「偽預言者が大勢世に出て行った」結果、真の救いがどのようなものであるかが分からなくなっていったからです。そしてその者たちは「反キリスト」を掲げ、世を味方にして私たちに攻撃をしてくるのです。私たちは心して、この勢力と戦っていかなければなりません。

神を知る

そのために、「神を知る」ことが肝心です。これにより、真理の霊と私たちが陥れる惑わしの霊を見分けることができるからです。

真理を知るために、真理でないものを学ぶことは愚かです。際限がないからです。真理を知る、神を知ることに集中することです。そのためには①真の礼拝をささげることです。そのことで神に属する者であることの自覚が育まれ、何が神のみ旨であるか、何が善なのかをわきまえることができるようになります(ローマ 12:1～2)。②なによりも神を愛することです。それにより「深い洞察を身に着け」重要なことを見分けることができます(フィリピ 1:10)。③神の言葉に親しむことです(ヘブライ 5:14)。それにより善悪を見分ける感覚を鍛えられるのです。これにより、この世の惑わしに打ち勝たせていただきます。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「私たちは神から出た者です。神を知る人は、私たちに耳を傾けますが、神から出ていない人は、私たちに耳を傾けません。これによって、真理の霊と惑わしの霊を見分けることができます。」(ヨハネの手紙一 4:6)

「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を造り変えていただき、何が神の御心であるのか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なものであるのかをわきまえるようになりなさい。」(ローマの信徒への手紙 12:2)



「私は、こう祈ります。あなたがたの愛が、深い知識とあらゆる洞察を身に着けて、ますます豊かになり、本当に重要なことを見分けることができますように。」(フィリピの信徒への手紙 1:10)

「固い食物は、習慣によって善悪を見分ける感覚を鍛えられた、大人のためのものです。」(ヘブライ人への手紙 5:14)

神さま、この世は惑わしの霊に満ちています。何が惑わしの霊なのかを知り、それに打ち勝つことができるように、さらに深くあなたを知る者とさせてください。御名によって祈ります。アーメン。

深読みにチャレンジ！

箴言 (115) 第5章21節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「人の道は主の目の正面にある。主はその道のりのすべてに気を配っておられる。」

◎口語訳 「人の道は主の目の前にあり、主はすべて、その行いを見守られる。」

◎新改訳 「人の道は主の目の前にあり、主はその道筋のすべてに心を配っておられる。」

「正面」

「主の目の正面」との言葉が使われています。この語を調べてみると、他の箇所では「差し向かい」(創世記 30:38)、「向かって立つ」(エステル 5:1)、列王記などでは的とにらみ合っているような場面で使われていますが、「相対している」だけではなく、真っ正面から見ているので「はっきり見えている」、つまり隠れることができないとの意味も含まれています。つまり、この箇所の流れから言って、誘惑に心を動かされるだけでなく、その道を外れてしまった時、だれにも知られていないと思っていても、神が「正面」で見えておられるから、神の目の前でその行為を行っているようなもので、神からは隠しきれないぞと、念押しされている言葉であることが分かります。

ただ、神から監視されていると受け取るのではなく、それは神が私の行く末、歩みを気にし

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1 ~ 9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1 ~ 22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17 ~ 31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17 ~ 24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1 ~ 29:27)
 - c アグルの言葉 (30:1 ~ 33)
 - d レムエルの言葉 (31:1 ~ 31)

てくださって「気を配っておられる」からであることを忘れてはなりません。つまり、神は私たちにいつも目を注いでおられ、少しでも曲がってしまわないように見守ってくださっているのです。「主よ、あなたは私を調べ 私を知っておられる」と始まる詩編 139 編には「座るのも立つのも知り」「思いを理解し」「見通し」「知り尽くされ」「言葉が上る前に何もかも知っておられる」「天に登ろうとも、あなたはそこにおられ」「私を離さない」など、「正面」の恵みと言える気配りが記されています。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをすることはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈祷課題」も祈る。

【月曜日】◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

詩編第95編7節「まことに、主こそ我らの神。私たちはその牧場の民、御手の羊。あなたがたは今日、主の声を聞きなさい。」◆人間が思いのままに振る舞うとそこに混乱が生じるのだが、自分ではわからない。よくまわりを観察してほしい。新聞の記事になるような出来事を起こす人を見て、なぜこんなに自分勝手なことをするのだろうと思わないだろうか。理性でとどめているが、あなたもそう変わらないのだ。私たちは神の民であることを忘れてはならない。そして、神が私たちを養ってください、間違いなく導いてくださるとの安心を得るべきである。

●賛美／230 ●祈祷課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

詩編第96編2節「主に歌い、その名をたたえ 日ごとに救いの良い知らせを告げよ。」◆私たちは毎日どのような会話をしているだろう。「感謝」系と「不満」系の2つに分類してみたらどちらが多いか。朝、「あー、もっと寝たい」「仕事(学校)に行きたくない」「なんでちゃんとやってくれないの」「あいつ、気に入らない」「疲れた」「まだ支度できてないの」などなど。「不満」系が多いはずだ。私たちの口は不平不満を言うために与えられたのではない。神を賛美し、ほめたたえるため、神のすばらしい救いを伝えるために造られた賜物なのだ。

●賛美／231 ●祈祷課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

詩編第97編5節「山々は蟬のように溶けた。主の前に、全地の主の前に。」◆神は必ず祈りに応えてくださる。ただ、あなたの思うようにではない。最善に事を運ばれ、それがなされた時に、あなたが満足する結果をもたらしてくださる。だから、祈ったらすぐに結果があらわれることも少ない。それは蟬が溶けるように、徐々に進んでいくからだ。私たちにはわかりにくくても、神は日々それを確実に進めてくださっている。だから、私たちはすべてを委ね、祈りつつ待つておればよい。いつの間にか目の前の問題は溶け去って行く。

●賛美／232 ●祈祷課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
◆宗教法人を取得できるように
◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

詩編第98編8、9節「山々はこぞって喜び歌え 主の前に。主は来られる、地を裁くために。主は義によって世界を裁き もろもろの民を公平に裁かれる。」◆「賛歌」と表題にあるように、全編が賛美に満ちている。どのような御業を賛美しているのか。「主が公平にこの世を裁かれる」からである。神の民にとって、この世の力との戦いは大変苦しい。だから、その試練を乗り越えられるように祈るだけではなく、神が神に属する者とそうでない者を振り分けるようにして裁いてほしいと願う。私たちはそれを待望すると同時に、自分の信仰も吟味しなければならない。

●賛美／233 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

詩編第99編7節「主は雲の柱の内から彼らに語りかけ 彼らは主の定めと、主から賜った掟とを守った。」◆民たちは荒野の40年、何によって導かれていたか。モーセに率いられていたものの、モーセが行く道を案内していたのではなく、「雲の柱、火の柱」の動きに従っていたのを思い出してほしい。これは聖霊のひな型である。どこに向かって行けばいいのかわからないこの時代に、私たちは聖霊の働きによって、その歩みを助けられている。聖霊は御言葉が神から与えられたメッセージであることをわからせ、これからも私たちを導き続けてくださるに違いない。

●賛美／234 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

詩編第100編3節「主こそ神と知れ。主が私たちを造られた。私たちは主のもの。主の民、その牧場の羊。」◆「感謝の詩」とあるが、口語訳は「感謝の供え物のための歌」と訳す。4節に「その門に進み、主の庭に入れ」とあることから、犠牲を携えてくる時に歌われたと考えられているからだ。供え物はさまざま規定があり、牛や羊、穀物などが献げられるのだが、それは何よりも自分自身の代わりに献げられたものであった。自分のすべてを神に献げる、そのような信仰だからこそ、「私は主のものです」と言えたのである。

●賛美／235 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

詩編第101編2節「私は全き道を悟ります。あなたはいつ、私のところに来られるのか。私は全き心をもって わが家の内を歩みます。」◆神は私たちを御許に引き寄せてくださる。だから私たちもそれにふさわしく、身を整えていく必要がある。実行することが難しくても、いつも心の中に覚えていなければ、私たちの生き方はぶれてしまう。ダビデからは「私は邪悪なことを目の前に置かず、主に背く行いを憎みます」「悪を知ることはないでしょう」「しる者を滅ぼします」「高ぶる目、驕る心を持ちません」との思いがくみ取れる。私たちも自分を律していきたい。

●賛美／236 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【しとげんこうろく 17:16～34】

「アテネでの でんどう」

(コリントー 1:18)

マケドニア、いまのギリシアにいったパウロは フィリピで リディアをはじめ、かみさまをしんじる ねっしんなひとたちと であい、また おおくのひとたちに イエスさまの おはなしをしましたから、たちまちのうちに クリスマンたちが ふえていきました。もちろん、こんなもありました。じゃまをするひとでも できて、パウロや なかまたちに ぼうりよくを ふるうひとたちも いたのです。しかし、パウロは かみさまからの まもりをうけて、つぎのまち、さらに つぎのまちへと でんどうの たびをつづけていきました。

パウロは とても おおきな まち、アテネまで きました。このまちのひとたちは、「にんげんとは なにか」「にんげんは どういきたら しあわせになるのか」といった はなしあいが とても すきな ひとたちが あつまっていて、ずっと

むかしから、まちのまんなかの ひろばで はなすのが しゅうかんだったのです。

そこに パウロが きて、そのひとたちとの はなしあいを しはじめました。パウロはいいました。「わたしは このまちの ひとたちが かみさまをしんじようとしている ところを もっていて、ほんとうのかみさまを さがしていることを しりました。しあわせとはなにか とは なしていることも わかりました。わたしが ほんとうのかみさまとは どのようなかたか、そして どのようにしたら にんげんが しあわせになるか、おしえてあげましょう」。そして、どうどうと イエスさまの ふくいんについては なしをしたのです。「にんげんが かんがえたり つくったりする かみさまは かみさまではありません。にんげんをつくられたのが ほんとうのかみさまです」。パウロは ねっしんには なしました。なにをいってるんだと わらって しんじなかったひとでも いましたが、まことのかみさまをしんじるひとたちも あらわれる ようになりました。

●かんがえてみよう

☆パウロは アテネ というまちで、どんなひとと はなしあいましたか。(しとげんこうろく 17:18)

☆パウロは アレオパゴス というひろばで どんなことを はなしましたか。(しとげんこうろく 17:23)

☆パウロの はなしをきいたひとたちは どんな たいどを とりましたか(しとげんこうろく 17:32～34)



なむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

あれおぼごすにたつ

お	す				あ	れ	ご	た
れ	た	あ	ご				お	ば
ご	ば				た		す	つ
			あ	ご	れ			
つ			に			ご		
			つ	た				
			た		に	ば	つ	あ
に			す	つ	ば	た		ご
	つ	ば						お

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① しかられるみざ
- ② きじょちゅう
- ③ じむちなだい
- ④ かしょうく

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「平安時代のクマ」

書道の作品を書く時にはテキストが必須です。漢字作品ならば中国の漢詩、かな作品ならば短歌が一般的です。短歌は最近の作品ではなく、古今和歌集などの平安時代に読まれたものを用いることが多いのですが、これはかな文字の能書家が多く存在し、すばらしい作品を残しており、かな文字文化がピークを迎えていた影響があるからだと思います。よいお手本があるので、それを見習いたい、まねしたいという思いから来るものなのでしょう。

「奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき」という、百人一首にもある猿丸太夫の歌に目がとまり、どのように書けるかなと考えていて、ふと、「鹿だけじゃなく、この時代にもクマっていたんだよなあ」と思い当たり、クマが出てくる歌を歌った人はいるのか興味をそそられました。さっそく調べてみると、ヒットしました。百人一首にも登場する源俊賴という歌人が「信濃なる すがのあら野にはむ熊の おそろしきまで 濡るる袖かな」と詠んでいました。信濃の「すがの荒野」(長野の菅平高原じゃないかとの説も)で獲物を探している熊と遭遇した時のとめどもない恐ろしさに似て、失恋したことで恐ろしいほど涙が出てくるっていう意味でしょうか。クマと恋をかけるのが平安朝らしいですね。

聖書ふれあい街歩き

●アッシリアの来襲 1

イザヤ書第10章に、アッシリアの来襲ルートが記されています。町の名が連続で記されていることで、勢いを増して進軍してくる様子が強調されているのが分かります。これらの町を知っておくと、当時のイスラエルの人たちのように切羽詰まった気持ちに近づくのではないかと思います。

まずアッシリアは「アヤトに着き」ました。この町はエルサレムの北約15～20kmほどに位置します。恐らく旧名は「アイ」。そうです。ヨシュアがエリコの次に攻略した町だと言われ、ベニヤミン地方の北端にある小さな町でした。侵攻軍がいよいよユダ王国に足を踏み入れたわけです。

次は「ミグロンを過ぎて」とあります。サウルがペリシテと戦う時に「ミグロンのざくろの木陰」で休んでいた(サムエル上14:2)との記述がある程度で、ほかには出てきません。アヤトの少し南にあった小さな集落と考えられています。もしかすると天然の要害となっていた「崖」を指しているかもしれないとの説もありますので、アッシリアは「過ぎた」というか「ものともせず突き進んでいった」というイメージをもったほうが正確でしょう。

ななめ聖書 先週のこたえ

め	ゆ	だ	ね	み	ら	れ	ぐ	に
に	れ	み	ぐ	だ	め	ゆ	ら	ね
ら	ね	ぐ	に	ゆ	れ	だ	め	み
だ	み	に	ら	ぐ	ね	め	ゆ	れ
ぐ	め	ゆ	だ	れ	み	に	ね	ら
れ	ら	ね	ゆ	め	に	み	だ	ぐ
ゆ	ぐ	れ	み	ら	だ	ね	に	め
み	に	ら	め	ね	ゆ	ぐ	れ	だ
ね	だ	め	れ	に	ぐ	ら	み	ゆ

①むらさきぬの

②べつこうどう

③しょうとつ

④かわぎし



ローマに向かうパウロ

大隊長は百人隊長二人を呼び、「今夜九時にカイサリアへ出発できるように、歩兵二百名、騎兵七十名、軽装兵二百名を準備せよ」と言った。

また、馬を用意し、パウロを乗せて総督フェリクスのもとに無事に護送するように命じ、次のような内容の手紙を書いた。

「クラウディウス・リシアが総督フェリクス閣下にご挨拶申し上げます。…」

(使徒言行録23:23～26)



連行されるパウロ

【大隊長の指示】

大隊長の言動を見ていると、まったく無駄がなく、そして矢継ぎ早に起こる不測の出来事もしっかりと把握し、その上で正確な判断をして危機的な状況乗り越えていきます。もし、ひとつでも間違えればエルサレムの町に暴動が起こり、事態の收拾は困難なものになったでしょう。さすが千人隊長です。

この人物が「クラウディウス・リシア」であることが、この手紙の文面で初めて明らかにされました。ローマの市民権を得た時に、敬意を示すために自分の名の上に皇帝の名をつけることはめずらしくなかったようで、そう考えると皇帝クラウディウスの治世AD41年から54年の間に大隊長に昇進し、市民権を得たのではないかと推測できます。クラウディウスは11章28節、18章2節に登場しています。

さて、その優秀な大隊長がパウロを護衛するために歩兵200名、騎兵70名、軽装兵200名の動員を命じました。これはどう考えても多すぎるように思います。国家元首レベルの要人ならばともかく、一囚人です。歩兵は剣を持たされている一般の兵士、騎兵は馬に乗ることを許され、歩兵の統率を委ねられていた上級兵、軽装兵はおそらく槍などの特殊な武器を持つことができた歩兵の上になるような兵士だったと思います。いずれにせよ、合計470名。これは「百人隊長二人」が呼ばれているように、百人隊が2隊動いたことになります。

ここまでの大規模な動員に踏み切ったのは、暗殺計画が単なる噂ではなく、組織的に、そして必ず実行されることが分かっていたからです。私的

な組織ではなく、ユダヤ人社会のトップがからんでいると分かれば、どれほどの規模になるか分かりません。念には念を入れたのでしょう。それほどに属州においてローマ市民を守ることは重要でした。申し上げているように、市民が不当に扱われたり、暴徒に殺されたりすれば、ローマの威信が揺らぎます。絶対に避けなくてはなりませんし、責任は総督だけでなく現地の軍司令官、つまりクラウディウス・リシアにも及びます。

行政の中心であるカイサリアまで約100km。山道などもありますから、どこから襲ってくるか分かりません。詩編の「都に上る歌」や「よいサマリヤ人」の話でもわかりますが、町から町に移動する場合、山道に待ち伏せする山賊などがいて、無事に目的地に行き着くことが当たり前ではない時代です。どう考えても10人、20人の護衛で乗り切れるような状況ではありませんでした。

「今夜九時に出発」も、相手の準備が整う前に移動しようとしたわけですし、できる限り目立たないで城門から出られる時間帯を選んでます。まずエルサレムから外に出ること、さらに危険地帯と思われる近郊の山道などを通過したら、あとはほぼ安全にカイサリアまで生けると考えたようです。アンティパトリスに到着、エルサレムから60kmほどの場所まで来ると、あとは騎兵70名に託し、歩兵はエルサレムに戻っています(23:31、32)。エルサレムに兵士がいなければ、その際に暴動を起こすことも考えられますので、大隊長も賭けに出たわけです。

緊張が続く場面でしたが、大隊長は見事に乗り切り、パウロをカイサリアに送り届けることができたのでした。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えます。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2026年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/17)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/15)として守ります。

四旬節(#2/18～#3/28)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/18)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/29～4/4)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/29)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/2)、十字架にかかれた受難日(#4/3)と過ごしていきます。

復活節(#4/5～#5/23)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/5)から始まります。春分の日からの最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/14)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #5/17)となります。

聖霊降臨節(#5/24～#11/28)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/24)から

始まり、三位一体主日(#5/31)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/29～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/20)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/10・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/14・6月第二)
父の日(6/21・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/22・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・木)
成人祝福礼拝(#1/11・1月第二)
聖書愛読週間(#3/22～28)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/29)
最後の晩餐集会(#4月2日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/14・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月28日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月5日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/13・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/1・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・木)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦

牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

